

仁和寺藏一字頂輪王儀軌音義院政期写本

影印並びに翻刻

松本光隆

仁和寺藏一字頂輪王儀軌音義は、仁和寺塔中藏第七函に現蔵の資料であつて、現在は、建立曼陀羅次第と共に、この二帖が包紙に一括されている。当該の一字頂輪王儀軌音義は、院政期の書写加点と認められる粘葉装一帖で、縦一八・六糎、横一五・一糎で、料紙には押界を施して楮交り斐紙（染紙）を用い、表の表紙には紺地の紙原表紙が存し、裏表紙には渋引の紙原表紙が存する。外題は、金泥にて「一字儀軌音義次第」とあつて、内題に「金剛頂經一字頂輪王儀軌音義」とある。尾題はなく、奥書には、別筆の「心蓮院（重書）」が存するのみであつて、書写加点に関するものはない。内題下には「心蓮院」の単廓朱印が、その左寄りに「仁和寺／心蓮院」の複廓の朱印が押捺されており、少なくともこの二個の朱印が押された頃から仁和寺心蓮院に伝来の資料であつたことが知られる。この他に、第五丁裏の料紙右下に、印文が判読できないが、方形黒印の半分と覚しき割印が存する。

料紙は、一律ではなく、第二丁よりの三紙ほどは他に比べて楮の強い、色調の淡い染紙を用いており、音義部分に当たる部分を狭み込んだ形となつている。翻刻第四丁裏と第五丁表に当たる部分は、本来は糊付けされていたものらしく、第五丁表の糊代に当たる部分には、半行文の本文が存し、また第五丁表は各行頭に庵点を付して、本文の抹消を示している。恐らく、本来は、同一の料紙によつて書写された本文が存したものであつたのが、一字頂輪王儀軌音義の音義部分を書き改めて、本来の音義部分を取り除き、そこに挿入したものと判断される。こうした操作は、本来の音義が「形服」の項目で終わつているのに対して、挿入されたものは、「特進」以下の項目の存するものであつて、この音義部分の異同が、改変の起因となつたものと判断される。挿入された本文は、他の部分と同筆であつて、書写同一人の手によつて成されたものであると理解される。書風や後に掲げた片仮名字体等から、院政期の書写加点になるものであらうと認められる。

本文は、表紙見返から始まり、粘葉装の装丁にしたがつて、糊代部分も書写可能な所には一行分の本文が存する。

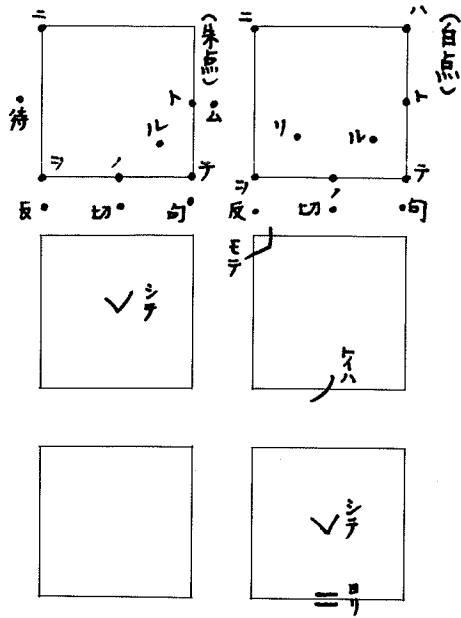
本文には、朱点と白点との二種類の訓点が施されているが、何れもヲコト点には喜多院点を用いている。ヲコト点と

片仮名字体を帰納したものは、以下の通りである。

片仮名字体表

| 豊符 | ン | ワ | ラ | ヤ | マ | ハ | ナ | タ | サ | カ | ア |
|----|----|---|---|-----|---|---|--------|---|---|---|------|
| 夕、 | | | | | マ | | | タ | | | |
| | シテ | キ | リ | | ミ | ヒ | ニ | チ | シ | キ | イ |
| | | | リ | | | | | | | | |
| | 事 | | ル | ユ | ム | フ | ヌ | ツ | ス | ク | ウ |
| | | | | | | | | | | シ | ウ |
| | 給 | エ | レ | (江) | メ | ヘ | ネ | テ | セ | ケ | (衣)エ |
| | | | | | | | | チ | | | |
| 云 | 奉 | ヲ | ロ | ヨ | モ | ホ | ノ | ト | ソ | コ | オ |
| 云 | | シ | | | | | ノ 了 | ト | | コ | |

フコト点図



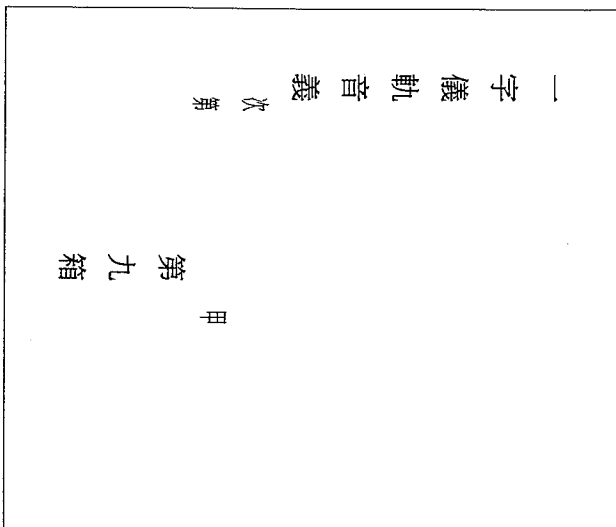
訓点は、抹消された旧本文である第五丁表の音義部分に、朱点のみが施されて白点がなく、又逆に、後に差し替えられたと考えられる第二丁から第四丁にわたっては、白点のみの加点で、朱点が存しないことから、本音義が一度書写された段階で、全体に朱点を加えられ、後に音義部分が書き改められて差し替えられ、新たに本文が完成された段階で白点を加えられたものと判断される。

現在知られている一字頂輪王儀軌音義の写本は、何れも鎌倉時代以降のものであることを考えれば、当該の院政期の資料は重要な伝本であると認められる。

翻刻本文凡例

- 一、本文は、仁和寺塔中藏第七箱所藏の金剛頂一字頂輪王儀軌音義院政期写本の全文の翻刻である。
- 一、行取は原本に従い、(一オ)、(一ウ)で丁数と表裏の別を示した。
- 一、漢字字体は、通行旧字体に従って翻字するのを原則とした。
- 一、原本には、朱と白との訓点が施されているが、ヲコト点は平仮名で、仮名は片仮名で示し、又、句点は「。」で、読点は「、」で、反点は「・」で示した。又、白点については「」に包んで朱点と区別した。
- 一、翻刻上の注については、翻刻本文当該の箇所「*」を付して、後に一括して掲げた。

(表紙)



仁和寺藏一字頂輪王儀軌音義院政期写本 影印並びに翻刻

(卷紙量返)

金剛頂經一字頂輪王儀軌音義

心蓮院

(朱印)

仁和寺

(複關 朱印)

文稽首至是故常皈命」贊曰「

〔卷註〕

此八頌 初五句有五說。一於初

句言普賢者。是理也。即是為一

字攝「」在下諸佛。故。或分為二佛。

謂普賢與諸佛轉輪王。是也。或

分為三佛。先二加現證大菩提。

是也。或分作□智謂普賢者是

(一才)

大圓鏡智、即阿闍佛。次一句妙

觀察智、即阿彌陀佛也。次一句

平等性智、即寶性佛也。為轉教

勅輪一句 成所作智、即不空成

就佛是也。或分作五智。先四加【註】

法界體性智。所謂受名金剛界。

一句是也。自此下句配四方并

(一之) 中體毗盧舍那佛也。從自頂流

出大金輪明王 二句 東方佛也。【註】

威光至圍繞。二句南方佛。爲一

切至輪王。二句西佛。纔現至皆

殆。北佛。至一體故。中體佛也。次

二句東佛、次二句南佛、次二句

西佛、次二中體佛、成佛至虛空。
同

(三才) 北方佛也 次一中體佛次二東

佛次一西佛令【註】頌【註】 二句 南佛【註】是

故常皈命「の」一 北方佛也「に」今別釋

文「を」

音義「を」也「を」

爍 音尺阿反「を」 令 善 故 實 纂 衣良 訓須留

揀 可尔 族 姓 四姓 也 騎 乃留 纂

繁句反「川」 万太久 翫 許于 鞞 鬼尔 反 孫 知 蓋

反「止良」 磨 須 拭 川波久 曼荼羅 加須 留

梵語「此」 且壇也「」 珮 波江反「川」 於布毛乃 嗽 无 瑜

伽 梵語此 得 果知反「奈」 側 祖波 云相應 太良加尔 无

押 於 鋒 銳 上止加利「」 素月 上白 須 下止志 也

拇 於保 柱 左「」 剋 能 額 比太比「」 由比 布 普加支

反「」 腕 太「」 牟支 腿 于都 腦 後 于奈 久保 股

毛 又 阿佐 膝 比 左 寫 口 悉地 此云 成哉

(三才)

織 左尔反川* □ 嬋娟 上禮反下
左傘字同* □ 捐反太平

也加奈 劇甚 調 志良 修者 禁止
留狀也 劇也 部 修者 止

微 无 盤 和 加 摺 取 由 猜 冤 苑反
晨 阿志 午* 馬 時 昏 由 布 暮 由 不 燼

毛江 冷 阿万 鎮 於 搜 阿奈 問 左
久比 子久 久 鎮 久 留 間 加

布 齊 保 秘 部 知 綉 保 知 師 川伊
帥 水尹反* 川 臺 以上高之* 作「リ」
上「を」云臺* 閣 以木* 高構「リ」

云 尔* 形服 与祖 比 特進 此正一
品也 試 尹

反* 此懸名* 而不為務* 時用此字* 解准之* 鴻 此「は」鷹中
大「を」云鴻*

臚 此「は」鷹乃加大波良乃之志奈
利* 此二字是司名* 准此土「の」治

部省 卿 此即其 司「の上」也* 大興善寺 此長
安京

内「に」在「全」寺也* 「各」云與
善寺* 者是尼寺也*

沙門 此梵語 略也* 具

(三才)

(五)

尹久 臺
以上，高作
以土，高作
上云臺之。

閣 以木，高
構云尔。
形

秘 部知
反

誘 保知
師 川伊
久左 帥
反。川

子久 阿万
久 鎮於
久 搜阿奈
久留 間左加
布 齊保
祖

久 鎮於
久 搜阿奈
久留 間左加
布 齊保
祖

午 馬
時 昏
由 布
由 不
戶 暮
由 不
戶 燼
毛 江
久 比
治

時 昏
由 布
由 不
戶 暮
由 不
戶 燼
毛 江
久 比
治

和加 奴
取 也
猶 也
冤 阿太
苑 反。
晨 阿志
太

和加 奴
取 也
猶 也
冤 阿太
苑 反。
晨 阿志
太

劇 甚
調 志良
部 志

修者 止
奈 止
微 无
盤 也

(四才空白)

(四才以下空白)

令：也。但詔与勅：一字
同用之。後問知之。

令：也。公 撤百官：時
「也」云詔：也。官告
民：時云詔：也。民永
之法「也」片時「也」

空 此灌頂時
「号」号
也正名「智藏
口「より」所「出」云

云志良摩尔奈
此云息惡修善。
大廣智 此王
賜「号」不

服とぎ 比ひ 与よ 相あ

(五)

一字頂輪次第

將ま往むか堂どう而を手て口くち淨じやう了りやう。則すなは室むろ結むす坐ざ

三密印。所謂以數字・手に二端「を」古こに三・心密さんしんみつに二體誦にたいじゆ了りやう。

次以噴字・淨。身及處皆燒淨了。

次以佛部心印。於頂・三誦次

以蓮花部心印上に右みぎ。大指おほさし。就すなは右みぎ

耳處みみ。三誦次以金剛部心印

上うへ左ひだり大指おほさし。就左耳處ひだりみみ。三誦了。

次無勝印むしょういん。加持了

然後しかる作往むか堂どう儀ぎ。謂我身金剛薩を

唾等つよ思之し。然後入堂、礼佛

(七)

念誦數了 次本言加持 印四

眷屬 各以一印
よ 四處 念珠言印

又加て此に、作御身の印を。
雖尔、先作る本言の印を、
觀して 本尊及

佛眼言印 又智拳本印 言_レ之頂_レ輸印

供養言印 讚印、獻闍伽

灌頂言印 悅聖衆言印

頂輸 大日三字密言 亦名御
身密言

五相、觀本尊 本眞言印 又名
一字

(六)

無能勝結護 言印 三解脱觀、

四無量觀 菩提心言印

次普礼印 言_レ之立左足*
足_レ誦之_レ 歸命等

燒香 塗香 三部印作了

處。*又加御身印。之。然後作定

印。入觀。字義及月輪種等。出了

本言加持 重加三 讚言印

供養 印言。數如 前。廿一。闍伽 歸命

等 無能勝 解界 但一遍。左 旋解之。

解脫印言 解脫 前三部心印了 數 如

(七) 前

(一行空白)

念誦了可礼毗盧舍那号十遍

花嚴經号 不動尊号 普賢 十

文殊 龍樹号 因明論梵号 十

陳那梵号 天主梵 十

注

- 表紙見返 8 □―虫損不明。
- 二才 2 □ノトク云―仮名虫損不明。
- 二ウ 8 □―虫損不明。
- 三才 3 時―某字擦消ノ上ニ重書。
- 三ウ 2 波良―「波(平)」、字同也「良(平)」「ノ白声点アリ。
- 五才 糊代部―「川加左傘字同也 女女」 「奈留状也」
(音義半行分)存セリ。
- 3 冷―下欄ニ「冷」書入。
- 5 部―「都」ノ篇ヲ擦消、重書。
- 6 以土―上欄「出」書入。
- 五ウ 2 一 下欄ニ黒割印アリ。印文未詳。
- 六才 3 薩―某字擦消ノ上ニ重書。
- 4 唾―篇「口」某擦消ノ上ニ重書。
- 6 足―見消アリ。
- 7 善―左傍「サ」書入。
- 六ウ 7 印―朱句点ヲ擦消。
- 七才 1 持―朱読点ヲ擦消。
- 2 又―コノ字ノ上某字擦消。
- 7 印―朱句点ヲ擦消。
- 7 解脱言是―コノ四字朱書。

已上浦書也

(別筆) 「心連院」(重書)

〔付記〕

本資料の影印・翻刻については、仁和寺門跡松村祐澄猊下・田中純應宗務総長をはじめとする仁和寺御当局の御温情を忝くした。又、写真撮影については、仁和寺総務課長小林弘侑師の手を煩わせた。記して深謝申し上げる次第である。